

共同生活援助における虐待防止及び身体拘束の
適正化対応マニュアル

一般社団法人 Wanna be

Wanna be 那加

目次

- ・ はじめに
 - ・ 本マニュアルの目的と範囲
 - ・ 虐待と身体拘束の定義

- ・ 虐待防止対策
 - ・ 虐待の兆候と報告方法
 - ・ 利用者の権利とプライバシー

- ・ 身体拘束の適正な使用
 - ・ 身体拘束の必要性の評価
 - ・ 適切な身体拘束の方法と記録

- ・ スタッフのトレーニングと監督
 - ・ スタッフの教育と訓練
 - ・ 監督と評価の仕組み

- ・ 利用者と家族への情報提供
 - ・ 利用者と家族への説明と同意
 - ・ マニュアルの共有と透明性

はじめに

このマニュアルは、グループホームで働くスタッフが虐待を防止し、利用者の権利を守るために必要なガイドラインです。虐待と身体拘束の定義、報告方法、適正な身体拘束の方法などについて詳しく説明します。

虐待防止対策

虐待の兆候と報告方法:

利用者の身体的、精神的、性的な兆候に注意を払い、適切な機関に報告します。
スタッフは虐待の疑いがある場合、速やかに上司や管理者に報告することが求められます。

利用者の権利とプライバシー:

利用者のプライバシーを尊重し、権利を守ります。
利用者に対して虐待防止対策について説明し、同意を得ます。

身体拘束の適正な使用

身体拘束の必要性の評価:

身体拘束が必要な場合、利用者の状態と症状を評価します。
他の対応策が不十分である場合にのみ身体拘束を検討します。

適切な身体拘束の方法と記録:

身体拘束の方法と期間を明確に記録します。
利用者の安全と快適さを最優先に考慮します。

スタッフのトレーニングと監督

スタッフの教育と訓練:

スタッフは虐待防止対策と身体拘束の適正な使用についてトレーニングを受けます。
定期的な研修と監督を行い、スタッフのスキルを向上させます。

監督と評価の仕組み:

スタッフの業務を監督し、適切な対応が行われているかを確認します。
スタッフの評価は定期的に行い、改善点を特定します。

利用者と家族への情報提供

利用者と家族への説明と同意:

利用者と家族に対して虐待防止対策と身体拘束の適正な使用について説明します。
利用者と家族の同意を得てから、身体拘束を行います。

マニュアルの共有と透明性:

本マニュアルはスタッフ全員に共有され、透明性を保ちます。
利用者と家族にもマニュアルの内容を共有し、理解を深めます。

令和6年2月25日 作成

令和7年1月 改訂